

平成29年度

産業観光局 事業の概要

— 新たな価値を創造する都市を目指す —

- 平成29年度産業観光局の政策・施策推進方針・・・1
- 重点取組の総括表・・・6
- 地域経済を支え、牽引する中小企業の下支えや成長支援・・・9
- 新産業・新事業の創出・・・15
- 企業誘致や流出防止・・・18
- 伝統産業の活性化・・・19
- 地域商業・商店街の振興・・・22
- 世界があこがれる観光都市の実現及び世界に冠たる国際MICE都市への飛躍・・・24
- 農林業の振興・・・29
- 不本意非正規の正規雇用化など、安定雇用の創出や担い手確保・・・34
- 中央卸売市場の整備・・・35
- 京都市の主要経済指標・・・37
- 産業観光局の組織・関連施設・・・39



京都市
CITY OF KYOTO

産業観光局

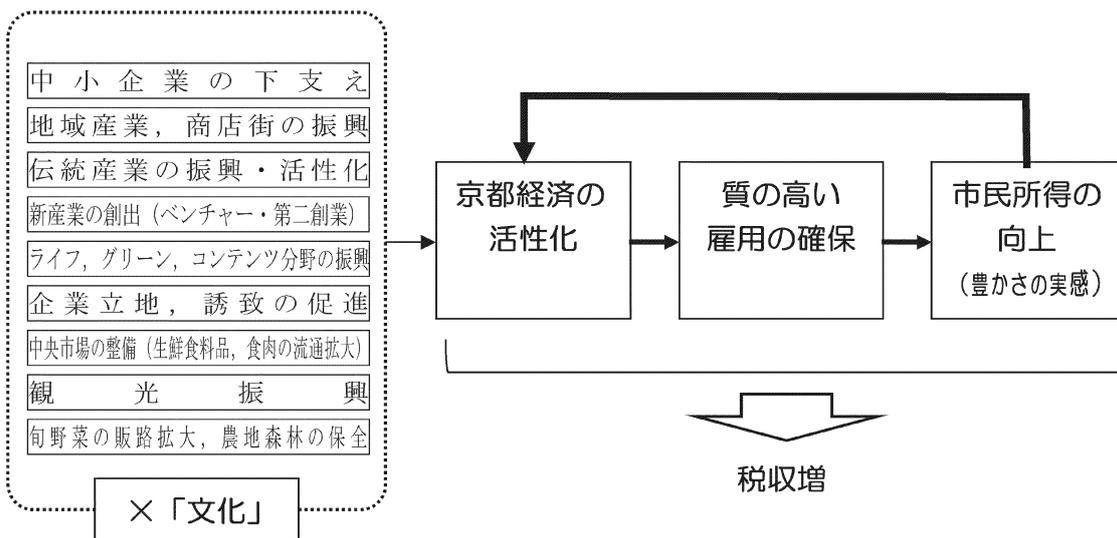
平成29年9月

(1) 目指す姿（地域経済発展のフローの実現）

産業観光局では、平成28年3月に策定した「京都市産業戦略ビジョン」に基づき、産業の振興を通じて社会課題の解決や都市の魅力創造を実現できるよう、様々な施策を推進しています。

平成29年度においては、文化庁の京都への全面的な移転決定を契機として、中小企業の支援や伝統産業の活性化、新産業の創出、観光振興、農林振興など、局内のあらゆる取組を、「文化」と掛け合わせて推進します。

これにより、京都経済を活性化し、質の高い雇用の確保や市民所得の向上によって、市民の皆様が豊かさを実感できる社会を実現し、さらには、好循環で自律的な地域経済発展のフローを生み出していくことを目指します。

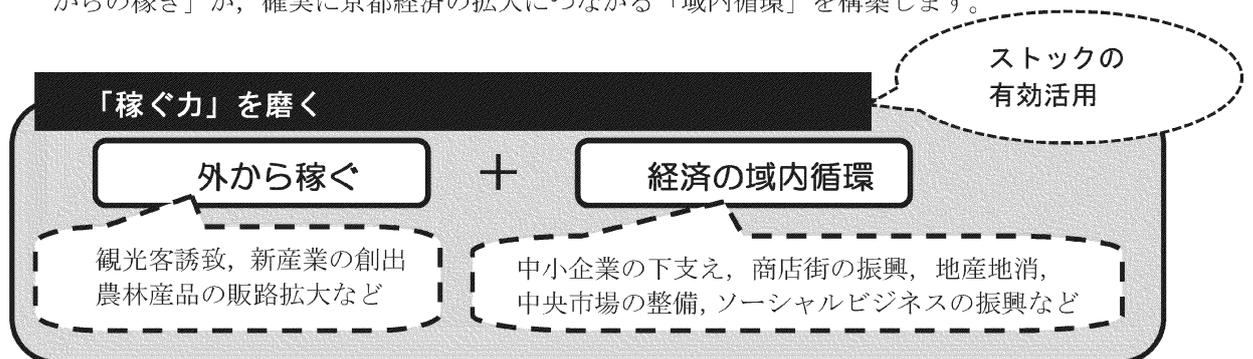


(2) 各政策分野を超えた横ぐし

「『稼ぐ力』を磨く」、「働き方改革」を、全ての政策分野に共通する「横ぐし」として推進します。

① 「稼ぐ力」を磨く

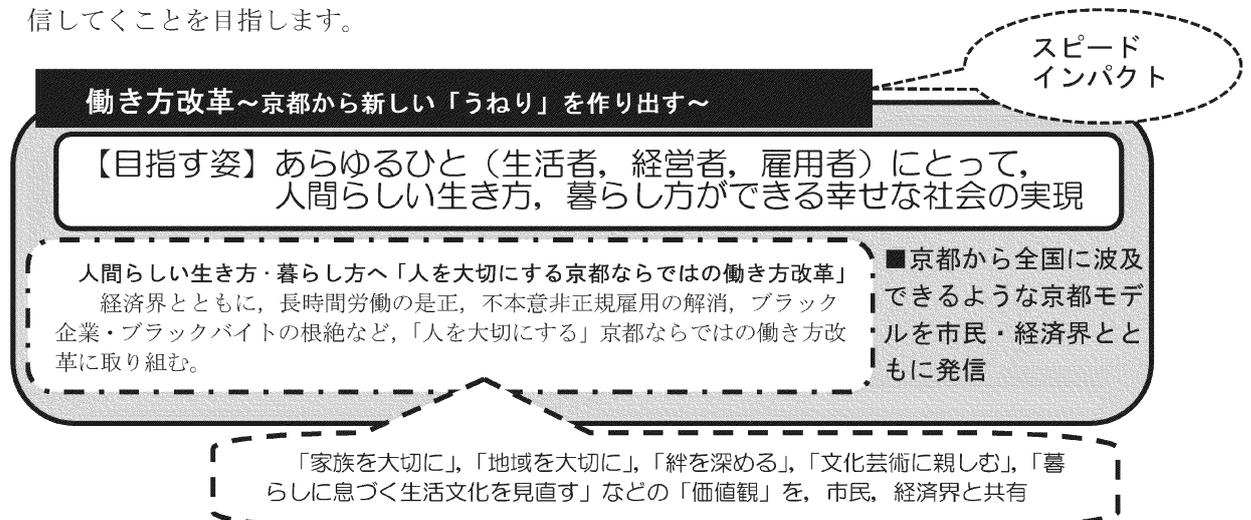
観光客誘致や新産業の創出、市内で生産された農林産品の販路を拡大する取組等で、京都経済の「外から稼ぐ力」を向上させると同時に、中小企業の下支えや商店街の振興、地産地消、中央市場の整備、ソーシャルビジネスの振興等、地域経済に根付いた取組を進めることで、「外からの稼ぎ」が、確実に京都経済の拡大につながる「域内循環」を構築します。



②働き方改革

あらゆるひと（生活者，経営者，雇用者）にとって，人間らしい生き方，暮らし方ができる幸せな社会の実現を「目指す姿」として，経済界と連携し，人を大切にす京都ならではの働き方改革を推進します。

具体的には，長時間労働の是正や不本意な非正規雇用の解消，ブラック企業，ブラックバイトの根絶はもとより，「家族や地域を大切にす」，「暮らしに息づく生活文化を見直す」といった価値観を市民や経済界の皆様と共有し，京都から新しいうねりを作り，全国に波及できるよ発信して行くことを目指します。



(3) 職員力・組織力の向上

①情報収集・情報発信

時勢を捉えた正しい情報に基づいて，的確な政策判断につなげて行くことができるよ，情報収集は，産業観光局の「生命線」と位置づけ，一人ひとりの職員が広くアンテナを張り，自ら迅速に情報を取りに行く姿勢を重要視します。

また，徹底して市民目線に立った分かりやすい広報や普及啓発に努め，「伝える力」を磨くことで，市民の皆様と問題意識を共有し，「みんなごと」として，様々な関係団体，企業等と共に解決して行く仕組みづくりを進めます。

②働きやすい職場づくり

内部事務の合理化，効率化等によって「働き方改革」に率先して取り組みます。また，適正な業務遂行の徹底やコンプライアンスの遵守によって，働きやすく，いきいきとした職場づくりを組織的に推進し，「仕事の質」の向上につなげます。

都市理念（都市の理想像）
世界文化自由都市宣言
（昭和53年10月15日宣言）

市政の基本方針
京都市基本構想（グランドビジョン）
（平成11年12月策定）
＜2001～2025年度＞
～くらしに安らぎ まちに華やぎ～
世界に開かれた産業の担い手の活躍の舞台となる活力あふれるまちの実現

◎各区基本計画
＜2011～2020年度＞
各区の個性を生かした魅力
ある地域づくりの指標と
なる計画

◎「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン」京都市基本計画（平成22年12月） ＜2011～2020年度＞

生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く

「京都の未来像」を実現するための方策として、相互の関連性に着目しながら、単一分野だけでなく、複数の行政分野を融合し、特に優先的に取り組むべき11の重点戦略を設定

実施計画第2ステージ（平成28年3月）

＜2016～2020年度＞

基本計画に掲げる「京都の未来像」の実現に向けて、重点戦略及び行政経営の大綱を推進するための具体的な事業等を示した計画

◎京都市産業戦略ビジョン
（平成28年3月）

＜2016～2020年度＞

産業振興を通じて社会課題の解決や都市の魅力創造に寄与することを目指し、産業、経済活性化の視点から横断的に、複数の分野にわたる施策の方向性を示す

◎「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」
総合戦略（平成27年9月）

＜2015～2020年度＞

人口減少社会の克服・東京一極集中の是正に向けて特に重点的に進める取組

全て盛り込み

施策推進の指針

◎分野別計画 政策分野ごとの取組を推進するための計画

産業観光局所管の分野別計画

◇第3期伝統産業活性化推進計画
（平成29年3月）＜2017～2026年度＞

京都の伝統産業の活性化に向けて、戦略的な施策を継続的に展開していくことにより、京都経済の発展と豊かで活気に満ちた地域社会の形成、更には日本の伝統文化の振興に寄与するとともに心の豊かさや新価値の創造を目的とする計画

◇京都市グリーン産業振興ビジョン
（平成26年5月）＜2014～2020年度＞

グリーン産業の振興に向けて、ものづくりの観点からこれら取り組むべき施策の基本的な方向性を示したビジョン

◇京都市ライフイノベーション推進戦略
（平成27年3月）＜2015～2020年度＞

ライフサイエンス関連産業振興に向けて、中長期的に取り組むべき方向性・内容を示す計画

◇京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン
（平成28年3月）＜2016～2025年度＞

食への信頼と京の食文化を支える「先進的食品流通拠点」の実現に向けた基本方針

◇京都市コンテンツ産業振興に向けた指針

（平成29年3月）＜2017～2020年度＞

コンテンツ産業の振興に向けて、今後4年間で取り組むべき内容をまとめた指針

◇京都観光振興計画2020（平成26年10月）

＜2014～2020年度＞

2020年のオリンピック・パラリンピックの日本開催等を見据え、世界があこがれる観光都市としての地位の確立を目指す計画

◇京都市MICE戦略2020（平成26年10月）

＜2014～2020年度＞

「世界があこがれる観光MICE都市」への更なる飛躍を目指す

◇京都市農林行政基本方針

（平成22年7月）＜平成2010～2019年度＞

本市の農林業の10年後の目指す方向性を定め、その実現に向けた取組方針（平成27年度に中間評価を実施し、基本方針を強化・充実したセカンドステージを策定（平成28年7月）

◇京都市中央卸売市場第二市場「京（みやこ）ミートマーケット」マスタープラン

（平成22年12月）＜2011～2020年度＞

「京都市中央卸売市場第二市場基本構想」で示したビジョンの実現に向けた重点戦略

<参考>

○世界文化自由都市宣言（昭和53年10月15日宣言）

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

○京都市産業戦略ビジョン（平成28年4月～平成33年3月）

京都市産業戦略ビジョンでは、産業全体の振興を図り、安定した所得と雇用を生み出すとともに、地域経済の好循環を実現し、産業活動の振興のみならず、社会課題の解決や都市の魅力創造に寄与することを目指すため、多様な産業分野における課題の解決や産業活動の器である都市全体の魅力創造に寄与する施策の展開の方向性を広くとりまとめております。

【施策展開の方向性】

成長市場を獲得する新たな産業分野の振興

- 成長市場の獲得、新ビジネスの創出
- サービス分野の振興による産業連関の強化と産業の高付加価値化
- 海外市場や首都圏市場の開拓

創造的なまちづくり

- 世界規模の交流環境整備、グローバルに活躍できる人の育成
- 若者の意欲や力を引き出すビジネス環境の創出

だれもが働きやすい職場や技術、ノウハウを継承できるビジネス環境の整備

- 働きやすい職場環境の整備、雇用の質の向上
- 新たな企業の誘致、企業の立地環境の整備
- 事業や技術の継承
- 企業の地域貢献

(URL:<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000196354.html>)

平成29年度 予算の概要

1 京都市予算の概要

平成29年度予算は、「はばだけ未来へ！京プラン」に掲げる京都の未来像の実現に向け、京プラン実施計画・第2ステージの取組を着実に前進させ、「くらしに安心、豊かさ実感、未来に責任」のまちづくりを力強く推進するとともに、京都の最大の強みである「文化力」を基軸として、産業・観光や福祉、教育、地域活性化をはじめとする、あらゆる政策分野を融合・充実させた総合的な施策を展開することで、非常に厳しい財政状況の中で、共汗と融合を徹底し、効果的で効率的な質の高い事業を構築する。

こうした基本姿勢の下、以下の4点を予算編成に当たって重視する。

- ① 京都の最大の強みである「文化力」を基軸として、産業、観光、福祉・子育て、健康長寿、地域コミュニティなどあらゆる政策分野を融合・充実し、京都への全面的移転が決定した文化庁と共に推進することで、京都はもとより、日本を文化で元気にする。
- ② 京都の知恵と強みを活かした成長戦略の推進により、京都経済の更なる活性化と質の高い雇用を創出し、市民所得の向上や中小企業の活性化、ひいては税収の増につなげ、市民が確かな豊かさを実感できる社会を実現する。
- ③ ひとりひとりがいきいきと輝くことのできる健康長寿・福祉のまちづくりを推進するとともに、全国トップ水準の福祉・教育・子育て支援を更に充実させるとともに、防災・減災対策、老朽化対策を進め、市民の安心・安全な暮らしを守るまちづくりを推進する。
- ④ “みんなごと”のまちづくりによる市民協働を更に進め、あらゆる主体の参画の下、地域の多様な魅力と個性を活かしたまちづくりを推進することにより、京都に国内外から人の流れを呼び込み、東京一極集中の打破に挑戦する。

2 平成29年度産業観光局予算の概要

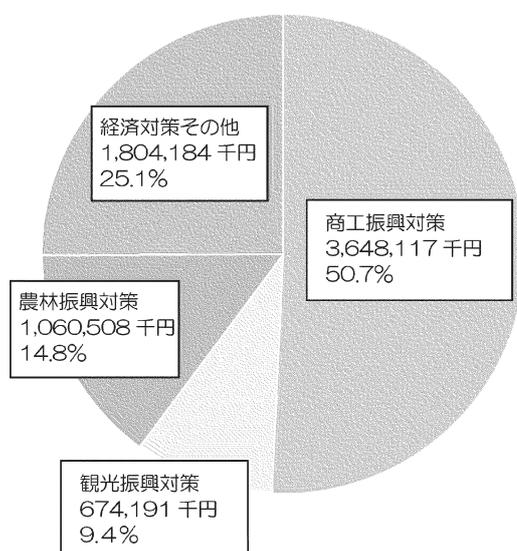
平成29年度の産業観光局の一般会計予算額は約489億円で、前年度当初予算と比べ、約123億円（20.1%）の減、その他特別会計では約63億円を計上し、前年度当初予算と比べ、約11億円（21.8%）の増となっている。

平成29年度予算編成においては、文化庁の京都移転を契機に、「文化」と局内のあらゆる取組との連携を強化するとともに、京プラン実施計画・第2ステージや「京都市産業戦略ビジョン」などに掲げる京都の未来像の実現に向け、地域経済の活性化と質の高い雇用の確保により、市民所得の向上につなげ、ひいては税収の増を目指す。

＜参考＞一般会計予算の規模等

区分	29年度当初予算	28年度当初予算	対前年度比較（増減率）
京都市一般会計	7,669億円	7,277億円	392億円（+5.4%）
うち産業観光局分	489億円	612億円	123億円（△20.1%）

産業観光局一般会計歳出予算72億円の内訳（給与費約17億、中小企業融資制度預託金400億円を除く。）



分野別対策	千円	構成比
商工振興対策	3,648,117	50.7
創業・新事業創出への支援	205,024	2.8
企業立地促進	662,470	9.2
新規成長分野への支援	393,835	5.5
産業振興対策	1,680,642	23.4
商業振興対策	85,210	1.2
伝統産業振興対策	253,261	3.5
中小企業振興対策	367,675	5.1
観光振興対策	674,191	9.4
農林振興対策	1,060,508	14.8
経済対策その他	1,804,184	25.1